レッスン：PYR No.49

テーマ：永遠のアトム

CON/CODE.PYR49/KE06L12/MO61

私の姉妹・兄弟たちよ、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかに抱かれています。

　前のレッスンでは永遠のアトムとLifeそれ自体の関係、そして現在のパーソナリティーとの

関係についてもう少し話しました。**永遠のアトムなくしては現在のパーソナリティーの現れは不可能である**と言いました。

　さて、現在のパーソナリティーがなくても永遠のアトムが存在し、実在できるのか？答えはイエスです。それは実在の諸世界の何処に実在し、どこからそれはそれ自身を現すのでしょうか？

　説明したように、永遠のアトムはLifeそれ自体の表現ですが、同時にその中にはLifeのスパークがあり、形のない（なぜならば永遠のアトムがそれ自身を現すために形を有する必要がないからです）凝縮したエネルギーです。

　しかし、

その中にはLifeのスパークがあり、同時にその中には現在のパーソナリティーが自己実現に到達した時に使用する高次ノエティカル体が見いだされます。

　そして説明したように、

実存の他の波動の中にいる探求者を助けたり、あるいはこの波動内で睡眠中の人に体験を与えるために誰かが使うのはこの体です。

この永遠のアトムを別の身体として使います、その中にある他の2つの体にマッチするために完全に再形成された体として使うのです。そしてそれが可能になるのは、永遠のアトムはそのステートでは、経験の結果としての気づきの特定のレベルを意味しないからです。

　再形成という点に関しては、いかなる人間のサイコノエティカル体にも触れることができません。なぜならば、それはワーク、その現在のパーソナリティーが現在の瞬間まで過去に行ってきた努力を意味するからです；言い換えれば、それは気づきのレベルを意味し、誰も他の人の気づきのレベルを変えることはできないからです。

　永遠のアトムについてたくさん話してきましたが、将来またそれについてより深く話しましょう。

Q：あなたはサイコノエティカル体に触れることはできないと言いました。私はサイコノエティカル界に何年も囚われていたパーソナリティー達がおり、誰かが彼等を助けねばならないということを聞いたことがあります。

K：違います。あるパーソナリティーがあるステートに連れて行かれ、そこでは他人に影響を与えることはできない、ということです。ステートという言葉で牢獄を意味するわけではありませんが、彼等は継続的に観察下におかれ、自由に他人とコンタクトすることが許されません。そして他人にコンタクトするという場合、他人を創造する、他人を意味するエレメンタルを創造することを意味します。厳しい規則に基づいた病院と言うこともできます。

　しかし私が思うに、あなたはマジックを使ったがゆえに何年間も実存の他の波動のなかに閉じ込められ、転生することもできない人間のことを言っているのではないかと思います。それはサイコノエティカル体とは何の関係もありません。サイコノエティカル体にはタッチしません。彼等はマジックを使って自分の周りにシールドを張り、そのシールドはそのパーソナリティーが実存の他の波動のなかで活動するのを妨げるのです。しかし、彼等は何にも成功していません。

Page2

Q：しかし、マジックの影響を受けて、実在の波動のなかで大いに苦しんでいる人々のケースもあります。

K：同じ周波数の中にいなければ誰もマジックによって影響を受けることはありません。影響を受けた人達は、その気づきのレベルがそのマジックを彼等に送った相手と同じレベルにいるからです。つまり彼等は送信者と同じ周波数を持っているのです。

　この地球上では昔、そして勿論他の惑星でも同じですが、マジックの使用を通じて多くのことが達成されました。なぜなら、創造エーテルを使うことができたからです。しかし、今は違います。

Q：地球で起きることは諸宇宙のなかの他の惑星にも生じるのですか？

K：そうです、この地球で起きたのと同じ進化のプロセスが他の惑星でも過去に起きて、そして現在でも継続的に起きています。そして明らかにそれぞれの進展経過に関しては詳細は異なります。諸宇宙において2人の人間がまったく同じような様々な体験をするということはありません。

　しかし一般的な成長過程は同じであり、私たちがサイエンスフィクションで見たり読んだりする内容は単なるフィクション以上のものです。何であれ過去におきたことは永遠の今のなかに見ることができます。しかし、過去の出来事を変えることはできません；そこに記録されたものは記録されたのです。

Ｑ：20世紀に起きた発展、そして現在のテクノロジーの進歩を見ると、次の50年、60年間には地球には驚くべき変化が起きるのではないでしょうか？

Ｋ：それは場合によりけりです。能力はあり、知識もありますが、しかしそれは経済を支配する異なった金融上の意向と信用によります。地球の温暖化の結果を予見しても、諸国の政府がそれに無関心である場合には人口の大規模な変化、シフトは避けられません。勿論、これは数世代以内には起きないかもしれませんが。

Ｑ：現在のパーソナリティーの墓の中の小さな五芒星と14芒星に関してですが、14芒星の内側のポイントは現在のパーソナリティーに触れないのが正しいのですか？

Ｋ：これは2番目のサイクルの中でのことです。五芒星のポイント（＊先端の尖ったポイント）のまわりの円は、潜在的可能性のサイクルを意味する円と一致します。そしてそれは14芒星の内なるポイントに触れます。2番目のサイクルをマスターしようとしている時、私達は14芒星の内側のポイントの上に自分自身を伸ばしていきます。これは原因結果の法則はもっと厳しいということであり、もし私たちが諸法則に反するとより厳しくなります。しかし、3番目のサイクルに入ったパーソナリティーはセルフ（＊自己）を意識的に現し始めます…つまりLifeそれ自体からより多くを表現するようになり、法則に即して生きるようになるということです。それゆえ、原因結果の法則による厳しい結果を蒙ることはなくなります。しかし、もし誰かがそのサイクルにおいて過ちを犯すと、その結果は2番目のサイクルにおけるよりも厳しいものとなります…しかしそのようなことは絶対ないとは言えないにしても、とても稀なことです。

Q：先ほどあなたは永遠のアトムについて話しました。そしてそれは現在のパーソナリティーなしで存在できると言いました。その場合にそれが存在する理由はなんですか？

K：それは存在します…新しいパーソナリティーの転生に関係する他のすべての人の永遠のアトムとの関係において決めるために。ですから＜時間＞があります。なぜなら、そのステートでは時間は存在しないからです、意味さえもそこでは存在しません。そのステートでは現在のパーソナリティーは活性化していません。

　もちろん、あるポイントでは現在のパーソナリティーが活性化してきます。活性化という時、それは活性化させるスパークであり、そのスパークは永遠のアトムの中にあります。そしてまた、サイコノエティカル体と一つになるのは永遠のアトムであると言いました、つまりそこには形があるということです；それが形を持つのはその時だけです。サイコノエティカル体が完全に再形成された時、それはサイコノエティカル体と一つになります。サイコノエティカル体が完全に活性化された骨組みを持つ時、その体は骨組みと完全にマッチしているという意味です。高次ノエティカル体の骨組みと同じように完全に同一の骨組みを有するという意味です。その時初めて、現在のパーソナリティーとして自分は過去にも存在したと言うことができるようになるのです。なぜならその時、その人は同時に永遠のアトムとして話しているからです。

Page3

Q :　全体のプロセスはどのようにしてスタートするのですか；サイコノエティカル界では人々が待っていて、もう一度転生するという決断が行われた時。新たなパーソナリティーにおいてどのようにして決断が行われるのでしょうか？そしてその後、子供が欲しいと望む夫婦から始まるのでしょうか？それとも、もう一度転生したいというパーソナリティーの思いから始まるのでしょうか？

K：あなたは現在のパーソナリティーの中のLifeのスパークはあらゆる所にあるのではなく、別の場所にあると考えていますね。しかし、全ての人のLifeのスパークはあらゆる物のなかにあります。それゆえ、

Lifeに関してあらゆるスパークは私たちの内側だけでなく、それらは同時に全ての人の中のLifeのスパークの中にあるのです。

決断はLifeのスパークによって下され、

同時にそれは私たち各人の永遠のアトムの中に広がります。

結局、永遠のアトムとは集合したエネルギー以外の何ものでもありません。

それは体ではなく、集まったエネルギーです。

そしてその中にあるそのエネルギー、Lifeですが、

同時に永遠のアトムがそのLifeの中にあります。なぜなら、Lifeの結果だからです。

Q：時々、私は次のように考えることがあります、“私たちはXYというフォームのエネルギーを扱っている、それに人間の名前や形などを付与する代わりに”と。これは私たちの理解の助けになるのではと思います、そして後になって気づきが高まると、私たちは物事を今とは異なった風に理解するのではと。

K：物事に対する人間のとらえ方、見方は常に変化しています。あなたがLifeそれ自体からより多くを現すようになればなるほど、あなたが学んでいること、見ること、周囲に存在するものに対する認識等、それらのリアリティーをより良く認識できるようになります。今私たちは何であれこの部屋にあるものを認識していますが、他の全ての人々と同じように認識しているわけではありません；そうです、私たち全員がこの部屋にいますが、私たち一人一人は異なった気持。フィーリングを生み出し、フォーカスする対象について異なった理解をし、それは常に変化します。昨日あることについて理解したものも、今日は異なった理解を示すかもしれず、将来私たちの気づきが成長すれば更に異なった理解を抱くでしょう。

Q：現在のパーソナリティーが2番目のサイクルの中で大きなピラミッドに入り初めると、現在のパーソナリティーがその中で立つことができるようになるために特定のワークが必要になるのですか？

K：特定のワークとはその現れのレベルを認識することです。あるエクササイズまたはレッスンを覚えているかもしれませんが、真剣な探求者は自分自身の気づきのレベルを認識するように努力すべきであり、それは非常に重要なことです。

**そして真のワークは現在のパーソナリティーとしての現実のセルフのレベルからスタートします。**

**つまり思考・行動の仕方です。言い換えれば、内側の役者を止めることです。**

これが何であれ私たちが過去に述べたことの意味です。

現在のパーソナリティーが立つことができて自分を意識的に現すことと、潜在意識的意識のセルフエピグノシスを現している自分との違いを認識することができるということです。それら2つの違いを認識することです。

　ワークは2番目のサイクルの終わりからスタートしますが、2番目のサイクルをマスターし終わるかなり前から多くのワークを行う必要があります。

この地点で多くのパーソナリティー達は2番目のサイクルをマスターして終了する前に、多くの困難、多くの誘惑に直面するでしょう。

これらの誘惑と困難は、小さな2つのエゴのなかのより小さいエゴによって生み出されます。そしてこれはまた3番目のサイクルにおいても何回かの転生の間続くでしょう。

小さなエゴ、私たちのエゴは生き続けるために奮闘することでしょう。

ですから、正しい思考、考えを現すように努力し、真の価値に重きを置き始めるようになることが重要です。

Q：エレブナのワークを通じて、私たちは適切なエクササイズを与えられ、知識を加えてきました。私たちはどの段階で、あるいはどのサイクルにおいて永遠のアトムにアプローチできるようになるのでしょうか？

Page4

K：意識的にではないですが永遠のアトムについての唯一のエクササイズは、

そのパーソナリティーが特定のパーソナリティー

（＊同じ自分であるが、ある転生における自分）を助けようと自分自身をコミットさせた時です

；つまり、特定のパーソナリティーが実際の経験をするためにそれを使うようになるために、永遠のアトムに形を与える、ということです。それが唯一の時です。

しかし、現在のパーソナリティーはそれが永遠のアトムであることに気づいていないでしょう。なぜならば、その永遠のアトムは肉体とまったく同じ形を帯びるからです。ここでは現在のパーソナリティーという言葉で、現在のパーソナリティーの意識を意味し、Lifeのスパークとしての意識ではありません。**なぜならLifeのスパークは神だからです。**このプロセスは以前のレッスンで説明しました。

　自己実現した現在のパーソナリティーは、進化成長の途上にある他の同胞の人間と同一の永遠のアトムは持ちません；そのサイコノエティカル体が同時に永遠のアトムなのです。

自己実現しても誰もが自分の個別性を保ちます。そして個別性を保つがゆえに、それぞれが異なった動き、活動をすることができます；私たちは他の人の活動、動きと自分の活動の違いを認識します。

　自己実現の前は、もし私たちがLifeの本質を完全に現すとしたら、誰もがまったく同じ動きをすることでしょう。そしてもしあなた方が異なった動きをするなら、もしその体験を考察すると、同時にあなたの体験は私の体験なのです。それはLifeの多重性です。ですから自分の個別性の認識を現すことができないでしょう。それゆえに、私たちの内側のLifeのスパークは現在のパーソナリティーという現れを活性化させたのです。そしてその現れは現在のパーソナリティーとしてLifeの本質を現しません。そして私たちは時間という意味のなかで異なった動きをします。私たちは異なった体験をしますが、同時に私たちはつながっていません；あなたの体験は私の体験に影響を与えません。影響(affect)という時、その意味はあなたが何かを体験している時に私はあなたの体験を得ることはない、ということです。なぜなら、もし私たちがLifeの本質を完全に現すなら（＊自己実現の前に）、同時に諸宇宙にいる無数の人間が同じ体験をすることでしょう。私たち各人が自分の体験を同時に他の全ての人に提供することでしょう。そして他の全ての人間も私に、あなたに、全ての人に彼等の体験を提供するでしょう。そして（＊そこでは）個別性は達成されないでしょう。

Q：それは自己実現で生じるのではないのですか？

K：自己実現すると、この波動のなかにいる間、コミュニケーションの高次の手段は同調を通じたものとなります。同化はLifeそれ自体の諸世界のものであり、それは魂のセルフエピグノシスのためのものです。**そして同化においても、そこではまだ個別性はあります。そして同化において、あなたは諸宇宙となります。**

　勿論、**同調のステートであなたは多くの人間または一つの国全体、さらには一つの惑星全体、さらにはあなたの意識を拡大させて諸宇宙さえも包み抱くことができます。しかし、それは同化ではなく同調です。そしてもしあなたが創造界全体を包み抱くなら、特定の仕事や助けを行う場合には同調する必要があります。**

Q：災害などの状況で、不可視のヘルパーは波動を下げて実際に安全な場所に人々を物理的に運ぶのですか、それとも他の人々がそこに到着するまでエーテルの活力を提供するのでしょうか？

K：それはあなたが助けようとするそれぞれのケース、そして個人によります。時には原因結果の法則が働くので、一人一人に対してはそれぞれ異なったアプローチが必要となります。時には、その人が知らない間に、そしてまた惑星ロゴスとの関係において、誰かを特定の場所に移動させて別の場所に置くことも許されます…それによって例え災害がその人のまわりの人全員に影響を与えても、ある特定の人には影響を与えないようにするためにです。それは原因結果の法則、そして神の慈悲と思いやりがどれほど働くかによります。

あなたがこの実存の波動のなかで助けを与えたいと思う時にはあなたは使用しません、高次ノエティカル体の中でサイコノエティカル体を同調させることはしません。そうです、あなたは同調を使うことができます。なぜならば、同調という能力があなたの内側にあるからです。しかし、他人の痛みを助け、その痛みを背負うためにはサイコノエティカル体を使う必要があります。

Page5

 サイコノエティカル体を使うということは、自動的にあなたが時間・空間の意味内にあり、また他の全ての意味と共にあるということを意味します。そしてまたあなたは原因結果の法則の下にいるということです。なぜなら、この原因結果の法則の働きの下にいなければ、あなたは他人の痛みを軽減するためにその痛みを背負うことはできないからです。もしあなたがそのような仕事を行う場合には、大いに注意する必要があります。なぜなら、誰かを抱いて運んでその人を危害が及ばないようにあなたが自分の波動を下げる場合、非常に注意する必要があります。なぜなら、あなた自身も危害を受ける可能性があるからです。というのもあなたの体に何かがぶつかったら、その結果を受けて肉体にも危害が及ぶからです。

　一つの同一体がおそらく時には多くの人々を助けることができ、またどれだけの数の同一体を創造することができるかに限界はありません。普通は、そのような災害の場合、あなたが一人だけで、一人の不可視のヘルパーとして行くことはせず、他の人々と一緒に行きます。

Q：あなたが一人で必要な数だけの同一体を創造することができるのに、なぜ他の人々と一緒に行くことが助けになるのですか？

K：助けになります、目が多いほど良いのです。特に、それほど多数の同一体を創造する必要もありません。なぜなら、より多くの同一体を作れば作るほど、肉体に影響を及ぼす“可能性”がそれだけ大きくなるからです。それゆえに何百万という無数のそれを作ることはしません、その能力はありますが；10、時には20の同一体を作りますが、場合によります。時には２または3つかもしれません。それは状況がどれだけ困難かによります。状況が困難であればあるほど、それに従ってより少ない数の同一体を創造します。しかし、他の人々からより多くの助けが必要となります。

Q：そして、自己実現していない人々の永遠のアトムを使う場合は？

K：ノー、そのような厳しい状況ではそれらは使いません。病院を訪れたり、既に起きてしまっている場合などには、他人の助けを使います。しかし、出来事が進行中の場合にはそうしません。

Q：私たちが一般に知っているような病院という意味ですか？

K：この波動のなかであなた方が理解している病院においても他人の助けを使わない時もあります。通常、助けはそこにあります。そして何であれこの波動のなかにあるもの、そういったものをここから創造することはしません。なぜなら既に実存の波動のなかにあるからです。

Q：もし自分の意識を現すことができるのなら、そこに出かけていくという考えを理解できません。

K：**あなたがそこに行くのではありません。あなたの所に来るのです、出来事があなたのところに来るのです。あなたが行くわけではありません、距離というものは存在しないからです。ある場所を訪れたいと思うと、自動的にあなたはそこにいます。**

Q：あなたは本当にどこにも移動しないのですか？

K：しかし、もし動きを体験したいなら、ある場所から別の場所へ移動するという体験をしたいのなら、それも可能です。**意識の移動を遅くすることができます。**

Q：その場合、行く必要はありませんね、なぜなら助けが必要な人々があなたの方に来るわけですから。

K：しかし、あなたは行くのです。もし誰かがあなたを見ることができるように物質化するなら、その人はそこであなたを見るでしょう。ここから何千マイルも離れた場所でも。あなたはそこにいるのです、しかしそこに行くために努力する必要はないのです。そこに行きたいと思うと、即座にあなたはそこにいます。**しかしあなたが何かを調査するためにある場所から別の場所へと移動したい場合には、地球の表面を飛んで、子細にあなたは自分の移動、動きを見ることができます。そうです、努力せずに飛び、移動することができ、表面を浮くこともできます。それが意識による移動、フローティングなのです。**

Q：フローティングするのはサイコノエティカル体ですよね。その場合、何か物質的なことはありますか？

K：サイコノエティカル体は物質です。そしてエーテルのレベルまで波動を下げる能力によって助けることができます。波動を下げることによって物質に触れることができ、持ち上げるための道具を使わずに持ち上げることができるのです。なぜなら、もし本当に痛みが軽減するように助けたいと願うならこのようにする必要があります。遠くから物を移動させるために他の能力、Lifeの能力を使わないで。物を動かすためにあなたはそこにいなければならないのです…あなたがそこに存在し、あなたの体をさらすのです。なぜなら、他人のためにそれを行うには、あなたは十字架上に置かれるのです。もし助けるためにそうしないで、原因結果の法則に縛られるなら、その場合にはあなたは自分をそこにさらすことなく遠方からそれを行うこともできます。あなたは遠方から見ることができ、遠方から何であれすることができます；しかし、そのような場合には助けることはできません。

Page6

Q：それは私たちが時々夢のなかで体験するのと同じような飛行を意識的に行うということですか？

K：**そうです、自分が飛行しているのを見る必要があります。しかし、そこではあなたの飛行スピードはとてもゆっくりです。そして飛行している間、自分が混乱して表面にいるのを見ることでしょう。私が飛行すると言う時、あなたは浮いています。丁度火花のように。もしあなたがそうしようと思わなければ、あなたは自分が飛んでいる、移動しているのを見ることもありません。しかし、何かについて考えた瞬間、あなたはそこにいます、何千マイルも離れた場所に。何千、何百万マイル、さらには何光年の移動でさえも；あなたは即座にそこにいます。つまり、あなたは諸宇宙を抱くことができるのです。**

**現在のパーソナリティーを活性化する小さなスパークと比較したら、諸宇宙は比べものにならず何ものでもありません。Lifeとはそれよりずっと大きなものです。私たちがこのように話していると、それは勿論ファンタジーのように思われることでしょう！**

　現在のパーソナリティーがそのような体験を現実のものとして経験する唯一の時は、3番目のサイクルのなかで自己を意識的に現し始める時です。その時初めて、そのパーソナリティーは自分の指でリアリティー、そのような現実に触れることが始まります。勿論、そのパーソナリティーは私たちが説明したような仕方でリアリティーを味わうようになると思いますが、それは遅いゆっくりとしたプロセスとなるでしょう。パーソナリティーはまず何からの出来事を思い出すことからスタートし、自分が誰か病気の人、傷ついた人等を訪問したことなどを思い出すでしょう。

Q：もし願望想念のタイプから離れるために努力すれば、願望想念を避けるためにほとんどの瞬間を今として生きるように努力するなら、より速く結果を達成することが可能でしょうか？

K：願望、欲望を脇に置くということはそれほど簡単なことではありません、そのことを理解しましょう。あなたが自分の決断を意識している時ですら、あなたは依然として願望想念のエレメンタルを生み出しています。あなたが何も所有したくなくても、それでも願望想念のエレメンタルを創造しているのです。プレッシャーやその他の何からも影響されたくない時、それもまた影響されたくないというあなた自身の願望です。このようなケースにおいてさえも、あなたは自分のエゴに奉仕しているのです。ですから、それは簡単なことではありません。

　自分が欲するものを言わない方が良いですが、しかし、何が重要であるかを分析し、それにフォーカスすると、何であれ願望を背後に残して、それが表面に浮かばなくなります。それは簡単ではありません。なぜならば、結局、進化成長のプロセスにおいてそのパーソナリティーが創造する大部分のエレメンタルは願望想念だからです。

　しかし時々、プロセスのなかで、Lifeそれ自体からより多くを現し始めるようになると、時々そのパーソナリティーは想念願望を創造するでしょう。しかし、継続的にではありません。なぜなら、他の人々からの思考・行動の仕方に影響され、また毎日の出来事において機能しなければならないので、それほど簡単なことではありません。可能か否かと問われれば、答えはイエスですが、多くの努力が必要です。それを見て下さい。

　レッスンのなかでは、一般に想念願望のエレメンタルは４番目のサイクルのなかで、そしてまた自己実現してその人が転生のサイクルに留まる時、より多く現されるようになると述べました。しかしそのような場合でも、そのパーソナリティーは他の人々と交流するためには願望想念を創造しなければなりません…そのパーソナリティーがこの世から離れていて、他の人々とまったく違うという風にならないためにも。

ですから、そのようになります。最愛のお方（＊イエスキリスト）でさえも、人々から受け入れられるためにはそのように振る舞いました…もし誰かが彼を判断し、高次のサイコノエティカル的成長を遂げた人は、イエスが願望想念を創造しているとみなしたことでしょう。

EREVNA/PYR49 KE06/L12061